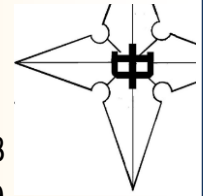


# 南浦和中だより



〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909

## 『あの夏の花火』

校長 おお こうち のり かず 大河内 範一



今年、夏の風物詩である「花火」が夜空に戻ってきた。私も人生のそこここに、花火にまつわる思い出がたくさんある。むかーしむかーし、妻と二人で花火大会によく行っていた。夏の行楽(デートとも言う)には手っ取り早かったのである。(あの頃は浴衣姿で少し後ろを歩き、とても可愛らしかったのだが、今では・・・〈涙〉)

まだ娘が小さかった頃、遠くの夜空の花火を見ては「はびびー、はびびー」と喜んでいた。なんとか間近で見せてあげたいという親心で、次の花火大会では娘を小脇に抱えて電車を乗り継ぎ、花火が真上に見える絶好の場所を陣取った。しかし、一発目の花火が「どどーん！」と打ち上げられた瞬間、あまりの音の大きさに娘が「ギャー」と泣き喚いた。娘の耳を塞ぎながら、一目散に帰宅したのもいい思い出だ。

担任をしていた頃、その学校は夏の林間学校だった。地元の花火師と入念に打合せを行い、キャンプファイヤーの最後にサプライズで本格的な花火を数発打ち上げた。予算は相当オーバーしてしまったものの、生徒たちの感涙は今でも心に残っている。

さて話は変わって、花火と言えば、「線香花火」もある。その儂く美しい燃え方は、「起承転結」の4段階があり、人生を表していると言われている。そして、それぞれの段階に植物の名前が付けられており、情緒たっぷりで実に奥深いのである。

**【起】牡丹(ぼたん)** 着火直後に、細かく震えながら丸くふっくらとした牡丹のような火球が作られる。人生の始まりである。

**【承】松葉(まつば)** やがて「パチパチ」と音を立て、松の葉のように細かく枝分かれした大きな火花が激しく勢よく噴き出す。人生のもっとも元気な時である。

**【転】柳(なやぎ)** 徐々に音は小さくなり、火花が柳の枝のように垂れて、やわらかく長くなる。人生では子育てや仕事が一段落して、落ち着いてきた時期になる。

**【結】菊(きく)** 散りゆく菊の花びらのように火花が静かに舞い、やがて燃え尽きて消えていく。この儂い瞬間は人生の終焉に例えられている。

このように、パッと光って咲いて、消えてしまう花火。中学校の生活も長いように感じるが、実は花火のようにあっという間に過ぎてしまうのかもしれない。

こんな言葉もある。『華やかな花火は、見えない努力をコツコツと積み上げていった人が、大輪の花を咲かせるのに似ている。』宵闇の真っ暗なか、花火が上空まで上がっていく見えない時間は、人が地道に努力をしている姿とオーバーラップするのだと。

2学期が始まる。生徒の皆さんは自分たちの時間を大切に、努力を積み重ねて充実した学校生活を送ってほしい。そして、花火のようにキラキラと輝く素敵な明日が来ることを願っている。それにしても、夏の終わりはちよっぴり切ない。